

○ 執 筆 要 領 ○

「投稿要綱：原稿の様式」のポイント

投稿要綱が 2016 年に改訂となりました。

以下に要領を纏めましたのでよくお読みいただき、これに沿って執筆くださいますようお願い申し上げます。
投稿要綱 (pdf, 和文) は医学図書館 HP <<http://lib.med.tottori-u.ac.jp/yam.html>> から download 出来ます。

I. スタイルガイド

投稿要綱 P4, §6.3: Style guide をよくお読みください。以下は特に気を付けて下さい：
§6.3.4) and や or を使って名詞を羅列する場合、and や or の前にコンマは付さない。[例]：A, B, C and D

II. 参考文献

本文中に引用された文献はすべてリストに入れる。リストに入っている文献は本文中に引用された文献に限る (投稿要綱 p. 5)

- 1 本文では引用順に上付き数字で示す。句読点 (period, comma, semicolon, colon) がある場合、上付き数字はその後ろへタイプする。
- 2 文末のリストは本文への引用順とする。著者または編者が6人を越える場合、7人目以降は et al. とする。
- 3 PubMed ID (PMID)、PubMed Central ID (PMCID)、Digital Object Identifier (DOI) または publisher item identifier (pii) がある文献はこの優先順位で ID を1つ末尾へタイプする。

雑誌名の略称 (投稿要綱 p. 6) 句読点の打ち方は 56 巻 1 号以降を参照する。

- i 雑誌名の略称は現行の MEDLINE/PubMed 方式に従う。旧式のものとは混用しない。
- ii 単語1個の欧文誌名は略称を使用しない。
- iii 各単語の略を示すピリオドは付さない。誌名略の後へピリオドを付す。書誌事項では、同じ数字は省略する。
- iv 本誌の略は Yonago Acta Med とする。
- v 和雑誌は MEDLINE (PubMed) 方式に従い誌名を略さずにローマ字化し最後に Japanese (または Japanese with English abstract) を付す。和雑誌名をローマ字表記する際の文節法は Table 5 を参照する。
- vi ローマ字はヘボン式で表記する。
- vii 主題の後の副題は小文字で始める。

文献記載要領

MEDLINE/PubMed の引用法へ沿う。付録 P.10-13 の International Committee of Medical Journal Editors (ICMJE): Uniform requirements for manuscripts (URM) submitted to biomedical journals の sample references を参照する。

III. 図表、legends、電子テキスト

- i Tables 投稿要綱 P6: §10 をよくお読み下さい。
- ii Legends for Figures 投稿要綱 P6: §11 をよくお読み下さい。以下に特にご注意下さい。
5) 染色法の記載。
6) scale marker を写真内へ付す場合の記載。
- iii Figures 投稿要綱 P7: §12 をよくお読み下さい。以下に特にご注意下さい。
5) 顕微鏡写真では scale marker を写真内へ付す。説明文中に original magnification を示さない。
- iv 図の電子テキスト 投稿要綱 P8: §14 をよくお読み下さい。以下に特にご注意下さい。
3) 組み写真でローマ字を写真電子テキストへ付す場合、別レイヤーを作り左下へ配置する。
4) scale marker を写真電子テキストへ付す場合、別レイヤーを作り右下へ配置する。

IV. 略語・科学記号について

投稿要綱 P7, §13: 略語 (abbreviations) をよくお読みください。

1 原則

当誌使用略語リストに掲載の略語は規定せず使用する：Tables 1-4.

- i 化学記号 (standard scientific symbols) は初出時に規定しない。 [例]：“sodium (Na)”ではなく、“Na”。
- ii 数字の後に来る度量衡の単位は初出時も省略形を使う。 [例]：“3 milliliters (mL)”ではなく、“3 mL”。
- iii 単位の略語表記は International System of Units (SI 方式) に従う：Tables 2 and 3. 文の始めでは、“Three milliliters of the agent. . . ”などとする。

2 使用方針

略語使用は頻出時の便を図るための工夫であり、使用はできる限り控える。

- i 短い言葉、そう長くない言葉は略さない。
- ii One word は略さない。
- iii 1度しか使わない言葉は綴る。

- iv 参考文献からの引用文に頭字語が含まれている場合そのまま引用しない。執筆中の原稿での使用頻度を考慮し、各語の使用・非使用について推敲する。

略語 [頭字語・acronym] を多用すると大変読みづらくなります。原稿をチェックし使用回数を数えるなど工夫下さい [検索利用]。使用頻度が少ない場合は頭字語使用は止め綴る方が良いでしょう。

3 Title と abstract

略語の使用は避けるのが望ましい。

4 規定の仕方

大部分の読者がよく知っている場合に使用し、初出時に丸カッコで規定する。

- i 略語は abstract と text で共通して使用する。規定は abstract と text の各々とする。
- ii 省略形と非省略形を混用しない (1 度定義した後は、spell out しない)。図表中での使用については §10-5) と §11-4) を参照する。
- iii イタリック体 (斜体) とローマン体 (非斜体) で意味が異なる化学記号は正しくタイプする。
- iv 統計学の記号は Table 4 に沿う。
- v 略語を複数形にするには s を語尾に付す。単位の省略形では複数を示す s は付さない。省略を示すピリオドは付さない (ラテン語など慣例上付しているものは除く)。

5 著者使用略語リスト

投稿原稿の第1ページ下部へ著者使用略語のリストを付す [Table 1 の略語はこのリストへ入れない]